

いしづち

2019.1

No.126



公益社団法人 愛媛県建築士会

<http://www.ehime-shikai.com>



全国大会「さいたま大会」報告

伝統建築物 明治の宿・木屋旅館（伝統工法）

スケッチ紀行 徳島県建築士会奈良建築バス旅行

1	年頭のご挨拶	年頭にあたり	愛媛県建築士会会長	赤根 良忠 ……①
2	年男・年女	年相応 年男について 年男の抱負について 2019年の抱負 ART48～温故知新 愛媛の地で新たなスタート 今年で還暦 新年を迎えて 新年の抱負 家族の復興計画	新居浜支部 新居浜支部 西条支部 今治支部 松山支部 松山支部 伊予支部 八幡浜支部 西予支部 西予支部	小野田公典 ……② 藤縄 洲二 ……② 白川 裕三 ……② 辻田 順一 ……② 新多 賢一 ……② 大内 雄志 ……③ 山本 武義 ……③ 原 政治 ……③ 松本 友 ……③ 和氣 新五 ……③
3	全国大会「さいたま大会」報告	第61回建築士会全国大会「さいたま大会」報告 第61回全国大会「さいたま大会」に参加して 全国大会「さいたま大会」地域実践活動報告 第7回ヘリテージマネージャーネットワーク協議会に参加して	事務局 西条支部 青年委員会委員長 文化財・まちづくり委員会委員	西岡こずえ ……④ 城戸 一也 ……⑤ 松平 定真 ……⑥ 峰岡 秀和 ……⑦
4	伝統建築物	明治の宿・木屋旅館（伝統工法）	宇和島支部	酒井 純孝 ……⑧
5	スケッチ紀行	－徳島県建築士会奈良建築バス旅行－	松山支部	安藤 雅人 ……⑩
6	委員会報告	矢野浩造（今治市小泉）概観調査 ソフトバレーボール大会 優勝報告 愛顔あふれるバレーボール大会 女性委員会主催「愛南町南予遺産を巡る見学会活動報告」	文化財・まちづくり委員会委員 四国中央支部 宇和島支部 宇和島支部	花岡 直樹 ……⑬ 高橋 智洋 ……⑰ 宮本 裕喜 ……⑱ 山田 千尋 ……⑲
7	支部報告	平成30年度違反建築防止週間 公開建築パトロール参加報告	松山支部	大内 雄志 ……⑳
8	けんちくの輪	次の世代へのバトン 建築と私	四国中央支部 松山支部	高橋 智洋 ……㉑ 渡辺亜加里 ……㉒
9	お知らせ	第7回理事会概要報告 新刊「愛媛の古建築を訪ねて」のご案内 専攻建築士（新規・更新）登録申請受付期間について		……㉓ 文化財・まちづくり委員会 ……㉔ 事務局 ……㉔
10	ブレイクコーナー	short short story 「HOUSE」 第三話 Closet		田真 夕楽 ……㉕

※ 尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



水彩画

題：「朝日」

上田 勇一

〔表紙画について〕

松山市の日浦地区は、石手川ダム上流の国道317号沿線に位置します。

石積みの棚田や彼岸花の自生する自然景観の美しい地域です。

早朝、山の向こう側から朝日が差し込んできました。その新たな光を待ち望んで描きました。

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

1974 東京生まれ
1980 小学校から高校まで松山在住
1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞
(愛媛県建築士事務所協会主催)
1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
1996 日本工業大学建築学科 卒業
1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」
(新潮社)の装丁担当
2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」收藏される
2015～2017 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
2017 絵画教室やオリジナルブランド額工房「(株)リチュエルカ」を設立
「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

年頭にあたり

会長 赤根 良忠

新年あけましておめでとうございます。
会員の皆様には、希望に満ちた明るい平成31年の初春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本会の運営にご理解ご協力またご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年は大阪・北海道での局所的な大地震、本件も特に南予～中予に大きな被害を受けた7月初旬の西日本豪雨、台風も例年になく多く接近したように思います。

今年は気候変動の少ない平穏な日々となってほしいものです。この豪雨災害に対して本会では愛媛県他関係自治体の指導のもと8・9月の2か月にわたり、被災住宅の応急修理について宇和島市吉田町において「被災住宅相談コーナー」を開設し建築士事務所協会と本会から相談技術者を派遣し、被災者の相談に対応致しました。また昨年10月25日には愛媛県庁を大西事務局長と訪れ西日本豪雨災害の義援金を贈呈致しました、神野副知事さんより「被災者の皆さんに届くよう責任をもって預かります」と感謝の言葉をいただきました。

その後、北海道建築士会さまより義援金13万円を頂きました。こちらも愛媛県庁へ贈呈致します。北海道建築士会さまありがとうございました。

老朽化並びに耐震強度不足により検討を積み重ねて来ました建築士会館の建替えについては計画案を平成30年6月の通常総会に諮り建て替えることの承認をいただき、思い入れのある旧建物の解体工事に着手し解体完了後整地された敷地にて平成30年11月17日関係者出席のもと地鎮祭を執り行い、現在基礎工事を終え鉄骨工事に着手しております。順調に工事が進めば新しい建築会館が5月中旬に完成予定です。応急危険度判定の拠点となる耐震にも安心・安全な建物で公益法人としての活動・業務を行いながら発生確率の上った東南海地震にも備えることが出来ます。建築中の新会館建設に際しては、資材・人件費の値上がりや当初の予算見込みの不足により金融機関はもとより会員さんからの借入れまた、企業・団体・個人さんよりの寄付金についてお願いしている次第です。もまだまだ充分とは言えませんが引き続き一層のご協力をお願いします。既にご理解をいただいた多方面の方々から心温まる寄付を頂いて、大変ありがたく御礼申し上げます。少しでも建築費の借入額を縮小し返済を少なくし将来にわたり財政的も少しでも有利な建築士会活動ができるように重ねてのお願いをいたします。

当会の文化財まちづくり委員会活動にて永年調査し、会報誌に発表してきた愛媛県内の神社・仏閣・民家等様々な古建築の貴重な調査資料33年分をまとめ編集し「愛

媛の古建築を訪ねて」として、この冊子をこの度発刊することが出来ました。建築が存する地域性や時代背景などについても触れており本会活動の一つを知っていただくことにもつながると思いますので、会員さんをはじめ一般の方々にもぜひこの冊子を購入一読いただきと思います。平成31年はまず新建築士会館を完工すること、人口減少と共に漸減している正・準会員・賛助会員の勧誘にて会員を増やすことをはじめ各種委員会の活発な活動を役員一丸となって邁進してまいります。会員の皆様はもとより関連する皆様のご協力ご支援をよろしくお願い致します。

平成31年が愛媛県建築士会にとって、また会員の皆様にも充実したより良い発展の年となるようご祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。



会館起工式の写真
平成30年11月17日に執り行われた地鎮祭



平成30年10月25日 愛媛県への災害義援金贈呈
左から大西事務局長・神野（こうの）副知事・赤根

年男・年女の抱負

年相応

新居浜支部 小野田 公典

ご時勢には逆らえず、最近は外で煙草を吸わないようにしているが、事務所で吸っていても来客から「煙草臭い」と言われる。煙草臭の多くは煙草の巻紙なので、葉巻かパイプか煙管なら（ラタキアやオリエント葉でも吸わない限り）お香と同じで咎められることはない筈である。だが葉巻はなんだか偉そうだし、第一経済がもたない。そこでパイプを始めた。爺ぽく見えるのがイヤだなと思っていたが、気がつくとも十分爺の年齢になっていた。

年男について

新居浜支部 藤縄 洲二

年男として何か書いてくださいと言われても、私はまだ70歳（この原稿を書いているのは11月なので）12月に71歳になり、年を越すと72歳の年男ということではささか実感がありません。と言ってもいろいろな会に出るとほぼ最年長の部類となり、じわりと身を引き始めています。36歳で事務所を開設し36年、人生の半分をこの世界ですごしています。会社勤めでリタイアした友人達は何時までも仕事ができ良いねと言ってくれますが、本人は何時までもやらないかんのやらか辞め時を探しています、と言いながら後5年は頑張らないと…。最近オートバイ買ってヨタヨタと走っています。

年男の抱負について

西条支部 白川 裕三

年男も5回目となり、還暦と呼ばれる歳となりました。先月、保険会社から還暦祝いの景品が届いたとき、人から還暦と言われ、改めて感じる時の過ぎることの速さ。今までいろいろ努力したことを思い出したり、もう少し頑張っても良かったかなと思うことなど、自分を振り返るきっかけとなりました。この先の人生、終わりに振り返った時に、可もなく不可もなく過ごせた人生だったと思いたいものです。

2019年の抱負

今治支部 辻田順一

一年一年を「疾風迅雷」の如く走り続け、気が付くと人生50年を10年もオーバー!!

多くの人に支えられ、恵まれ、感謝の60年です。

建築への情熱を維持するため、趣味と実益を兼ねて時間があればあちらこちらの建築を観て歩き&美味しい食事と温泉を楽しんできました。（もちろんワインやビールも飲みながら）。

一年半前の右ひざの手術をきっかけに、行ける時には行くという思いはより強くなり、今までは西日本中心でしたが、今年からは東北の方にもどんどん行きたいと思っています。

ART48～温故知新

松山支部 新多 賢一

「人間50年」と謡った信長の時代から、この平成では「人生100年」と言われ、もはや現実的なことです。昭和の私が齢48になる頃、新しい元号に変わります。いつの間にか年男となる速さより、想像を絶する速度で世の中が変わっており、その変化を受け止める必要があります。しかし、世の中が変わっても、変わらず必要なこと、それが「活力」。イキイキとパワーある日々を過ごす人は、どんな分野でも魅力的です。建築業界にも、お手本となる先輩方ばかりです。普段バスケットボールをしておりますが、一緒にプレーしているのは、20代から60代。特に、先輩方が走り跳ぶ姿を見ると刺激受け放題です。全国には、80代90代の大先輩方がプレーしています。そんな先輩方の背中には、自分自身人生を歩む上で、多くのヒントがあります。「最近の若いもんは…」と苦言を呈することがある、そんな先輩方も昔は同じように言われていたことでしょう。信長も言われていたんじゃないかな。もうすぐ50。ヒト・モノ・サービス、過去・現在・未来をつなぐこと、想像を絶する世の中の変化に忘れてはいけないコトがあると感じます。

愛媛の地で新たなスタート

松山支部 大内 雄志

新年明けましておめでとうございます。

愛媛県へ移り住み早5年が経とうとしています。会社からの転勤辞令を受けたのがH26年4月。それまで愛媛県にはほぼ来たことがなく、右も左もわからない中で、建築士会での活動を通し、さまざまな業種の方々と交流を深めることができ、今では正真正銘第二の故郷となりました。建築士になり建築士会に入会したおかげです。

年男を迎える今年は、まだまだ36歳…少し身体に気を付けながら、愛媛の地6年目をイノシシのようにまっすぐひたむきにかけぬける1年にしたいと思っています。そして皆様の幸せが、いの(亥の)一番にやってくるよう心から祈っています。今年もよろしく願いいたします。

今年で還暦

伊予支部 山本 武義

新年明けましておめでとうございます。

今年で5回目の年男であること、今年で還暦になることを意識したのは、今回この原稿依頼があってからでした。あっという間の60年、その間様々なことがありました。建築会社に就職をして、結婚し、子供ができて、今は孫にも恵まれました。休日に怪我をして会社に迷惑をかけたこともありました。

今思えば、人生には大きい波、小さい波があり、大きい波が廻ってきたときに体調の変化、人生の変化があるように思えます。同年代の皆さんはこれからも気持ちを若く持って、若い世代の皆さんは、一つずつコツコツと地道に進んでいき、大きい波を乗り越えていきましょう。

新年を迎えて

八幡浜支部 原 政治

新年明けましておめでとうございます。

今年、還暦を迎えての年男です。まだずっと先の事と思っていた定年も目前となり本当に多くの方々に助けて頂き建築に携われた38年。感謝です。初孫は掴まり立ちし日々新しい事が出来るようになり、方や出来る事が減ってる我が身ですが、孫から元気を貰いながら、また再任用で気持ち新たにチャレンジしたいと思っていますのでどうぞよろしくをお願いします。

新年の抱負

西予支部 松本 友

明けましておめでとうございます。西予支部の松本友と申します。この度、年女にあたるということでご用命頂き、投稿させて頂きました。前回の年女の頃は何をしていたのだろうと振り返ってみますと、ちょうど大学を卒業して、社会人一年生として奮闘している時期でした。思い描いていた建築の仕事と現実とのギャップに戸惑っていた時期でもありましたが、今となっては、こうして少しずつではありますが、建築に携わる仕事を続けてこられてよかったと思っております。現在は結婚し、二児の母となり、生活にも大きな変化がありました。また、新しい気持ちでたくさんの方々のことを吸収しながら成長していける一年にしたいと思っております。

家族の復興計画

西予支部 和氣 新五

私は西予市野村町に在住しており、この度の7月豪雨災害にて自宅の一部が浸水しました。幸いにも家族全員無事でしたが、自家用車や家財類が水没し、近々予定していたマイホームの新築を延期せざるを得ない状況になり、当時はやり場のない悔しい思いでした。

その様な中でも、復興を支援して頂いた多くの方々の一生懸命な姿を拝見し、時には励ましの言葉を頂いた事により、今では家族全員前向きに再マイホーム計画を進めております。これから3年以内には、前の計画を上回るマイホームを建てたいと考えております。

第61回建築士会全国大会 「さいたま大会」報告

全国大会「さいたま大会」報告

3

建築士会事務局 西岡 こずえ

開催日：2018年10月26日（金）
 会場：大宮ソニックシティ・パレスホテル大宮
 参加者：55名
 連合会会長表彰：
 大野順作（今治） 西浦郁子（松山） 尾藤淳一（四国中央）
 伝統的技能者表彰：田中弘良（西条市）
 日本建築士会連合会賞 奨励賞：奥野崇（松山）

本会ツアーに23名、支部ツアーや個人行動32名の
 大人数で、さいたま大会に参加してきました。私は、本
 会ツアーに参加させて頂きました。
 25日（木）の朝より出発し、お昼から築地場外市場等
 東京観光しました。夕食は、品川桟橋より屋形船に乗っ
 て懇親会です。



<屋形船にて>

建築士会貸し切りの屋形船にて揚げたての天麩羅とお
 酒を飲みながら2時間半のクルージング、船上にも上が
 れ、橋の下を通るたび長岡さんの「北酒場」を歌う姿が
 印象的でした。最高に楽しい懇親会となりました。



<船上にて夜景撮影>

<長岡さん熱唱>

さて、全国大会当日は10時前に大宮へ到着し、青年
 セッションに参加しました。



<冊子販売中>

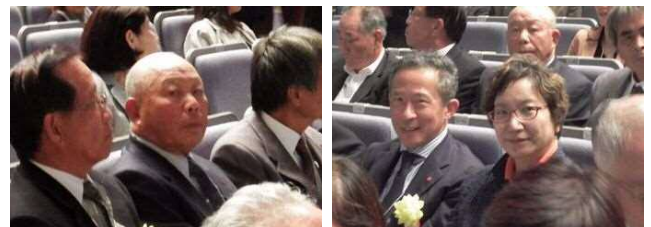
<発表前の姿>

地域実践活動報告に中四国ブロック代表で西森さん、和
 田さんが出場しました。3年前にも金沢で発表した西森
 さんの姿に目がしらを熱くしましたが、今回はさらにレ
 ベルを上げたスピーチと堂々とした姿、また、和田さん
 のカツラを被ったマドンナ姿に、何故か安心して見るこ
 とができました。

最優秀の手ごたえを感じたのですが、関東ブロックが
 最優秀を手にしました。審査方法等、腑に落ちないので、
 次回東京である青年委員長会議で、松平委員長に明
 確な審査方法とするよう議題としていただきたい。

また、朝早くから花岡さん、峰岡さん達がオレンジポ
 ロシャツを着て、出来たてほやほやの冊子「愛媛の古建
 築を訪ねて」を販売していただきました。屋台ブースの
 階段で行きかう人々に声を掛け、40冊販売していただ
 きました。慣れないセールスに疲れたことだと思います。
 ありがとうございます。

大会式典では、地元高校生のお琴の演奏で始まりまし
 た。愛媛より5名の方が表彰されました。皆さま、おめ
 でとうございます。



<伝統的技能者 田中さん>

<会長表彰 左から尾藤さん、西浦さん>

翌日は各々自由行動、明治神宮と新国立競技場を見て
 きました。明治神宮は2日後にご結婚される高円宮家の
 絢子様準備が行われておりました。



<羽田空港にて集合写真>

来年は9月21日（土）函館にて全国大会が開催され
 ます。事務局では、総務・企画委員会と共にすでにツ
 アーの計画を始めております。来年のスケジュール帳に
 9月21日函館大会と書いておいてください。

第61回全国大会 「さいたま大会」に参加して

西条支部 城戸 一也

平成30年10月25日から27日にかけて西条支部11名プラス表彰者ご夫妻2名でさいたま大会に参加しました。

行きは午前9時に西条をメンバーの車2台がそれぞれ海廻り、R11廻りで出発し、途中メンバーをひろって松山空港へ、11時45分松山発で空路羽田へ。

ホテルチェックイン後、夕方、はとバスにて都内観光。田舎にない華々しい夜景を東京スカイツリーから堪能しました。

26日は記念講演と式典だけの参加でしたが、会場の大宮ソニックシティに早目に行き記念撮影。昼食は表彰者ご夫妻と4人で中庭に出店していたテントでいただきました。



〔会場にて集合写真〕

記念講演は「人工知能を活用した未来社会」という時代にマッチした内容で大変興味深く拝聴することが出来ました。

式典のオープニングは奇しくも松山女子高等学校箏曲部のアトラクションで始まり、いろいろな方の挨拶があった後で、連合会長表彰、伝統技能表彰等の表彰があり、愛媛からは西条の田中建築鋳金工業所、田中弘良氏



〔伝統的技能者表彰受賞の田中弘良さん〕

が表彰を受けられました。

田中氏は鋳金加工の分野で長らく活躍され、現在は息子さんに代替わりしておられますが、あとで聞いた話では、今でも手間のかかる加工物は頼ってこられるそうです。樋を鋳金を丸めて作っていたということを作っておられた本人から直接聞くのは初めてでした。



〔全国大会で展示された写真パネル〕

続く来賓祝辞では林野庁長官のいろんな事柄、数字等を暗記していて淀みなく語られるのに感銘を受けました。いつかはこんな風に話せる人になりたいと思ってもみませんがやはり作りが違うのでしょうか。

大会旗をさいたまから函館に引継ぎ式典が終了しました。大懇親会には参加できませんでしたが、西条のメンバーで懇親会を開催しました。思い立つまでは大変だけど参加すればいいものですね。

来年は函館、遠いけれど旅費を貯め参加できればいいなと思います。



〔大会旗が北海道会長へ渡されました〕

全国大会「さいたま大会」 地域実践活動報告

全国大会「さいたま大会」報告

3

青年委員長 松平 定真

10月26日、建築士会全国大会「さいたま大会」で、愛媛県青年委員会は、地域実践活動の報告をしました。地域実践活動とは、職能で得た専門知識を地域に還元すると共に、建築士（会）が地域社会や市民・学生とつながる役割を担う事業となっています。

愛媛県の活動としては、県内の建築学科のある高校の生徒を対象に、「とびだせ建築士」という事業でいろいろな企画を行っています。（詳しくは過去のいしづちをご覧ください。）

この地域実践活動報告会は、まずは全国7ブロックでの予選・選考会からの、全国大会での発表になりますが、本年度は中四国ブロック大会で最優秀賞となり、さいたま大会での発表となりました。



〔左 和田さん、右 西森さん〕

今回の発表者は、3年前の地域実践活動報告石川大会で優秀賞を勝ち取った西森さん。補助者に和田崇さんという、松山支部の精鋭に託すこととなりました。なぜ再び西森さんなのか…それは…今年の初めの青年委員会で、今年地域実践活動の話になった時、誰が何の発表をしようかと話し合っていたところ、東予で行っている「～橋を作ろう～ in 東予高校建築工学科」のところで、西森さんが「楽しそうな活動ですね。」と言ったことが始まりじゃないかと思います。快く引き受けてくれましたが、忙しい仕事の合間での資料作成、発表の練習、ありがとうございました。

発表当日は、青年委員も含め多数の応援に来ていただき、西森さんの「坊ちゃんです」のフレーズからの上手な発表（プレゼン力はかなり凄いです。尊敬します。）を見て、かなりの手応えを感じて、これはいけると思いましたが……結果は奨励賞にとどまってしまいました。事前投票では、圧倒的な1位でしたので、かなりのショックでした。

事前投票結果発表	合計有効投票数：252票
1位：中四国ブロック 西森 聡 『とびだせ建築士』	65票
2位：関東甲信越ブロック 松野 中村 雄太 『ツミノチカラ』	55票
3位：近畿ブロック 奈良 丹久俊樹 『五感で感じる木の事業』	44票
4位：東北ブロック 若手 信原 毅 『おうちをつくらう』	18票
5位：北海道ブロック 北海道 高橋 友樹 『ふれあい木工教室』	17票
6位：東海北陸ブロック 福井 村松 龍哉 『まちあるきMAP製作事業』	16票
7位：九州ブロック 熊本 久保田百記 『日本遺産・人吉歴史地域における建築士の役割』	11票

〔事前投票結果〕

中四ブロックでの優秀賞が決まった時に、西森さんに「全国大会では、委員長は優秀賞の表彰を受けないといけないので、スーツで来てくださいね。」と言われて、新調したスーツの出番はありませんでしたが(ウソです)発表スピーチも、内容も、他県に比べてもかなりいい感じだったと思います。



〔全国7ブロックの代表者のみなさん〕

大会終了後、青年委員の敏腕幹事、長岡さんに残念会の段取りをしてもらい（知らない土地でも、いいお店を探してもらえる長岡さんも凄いです。尊敬します。）さいたま名物…ではない牛タンを食べながら、意見交換をしました。

悔しい結果で終わりましたが、今回の発表で愛媛県青年委員会の活動の活発さ、団結力、ヤル気を感じ、委員長としてもまだまだ力不足を感じつつ、これからもいろいろな活動を進めていきたいと思っています。

発表者の西森さん、補助者の和田さんをはじめ、青年委員のみなさん、応援頂いたみなさん、ありがとうございました。

第7回全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会に参加して

文化財・まちづくり委員会 副委員長 峰岡 秀和

10月26日、埼玉県で建築士会全国大会が行われましたが、それに先立って、10月25日に大宮ソニックホールにて「第7回全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会」が行われました。地域ネットワーク64名、協賛団体54名の118名が出席し、愛媛県からは花岡直樹委員長、ヘリテージマネージャーとして峰岡義則、そして峰岡秀和の3名が出席しました。



全国ヘリテージマネージャー協議会総会の様子

協議会総会では報告事項として、人材育成の現状、活動ネットワーク、広域連携について各ブロックからの報告がありました。全国的に建築物の活用に対しての活動よりも、調査・保存やスキルアップなどを含めたヘリテージマネージャー(以下HM)の育成について意見が多かったように思います。また関東ブロックでは、育成しても仕事がないという現状を問題にあげており、今後教育機関やその他行政にHMという組織を伝えるとともに、協議会の中でも普及させる努力をして欲しいとの声も聞かれました。愛媛県でのHM養成講座は、今年で3回目となります。今年の卒業生も含めると、約70名のHMが誕生する事となります。今後、県内でのネットワークの構築や、スキルアップなどが当面の課題として挙げられますが、全国的にも同様の課題があるのだと感じました。東海ブロックではHMの仕事として伝建地区の改修などの図面作成やまちづくりについて参加し、意見を述べているなど、積極的な活動内容も報告されていました。

山川満清氏(熊本県)からは被災歴史的建造物の被災調査活動等について報告がありました。これまでは被災状況の把握と復旧への方向付けを示す事が主でしたが、震災より2年半経過した今、実際どのように復旧してゆかが問題となっているようです。現在、復旧支援事業として、被災した歴史的建造物の復旧のための所有者負担を減らすため、地震被災文化財等復旧復興基金を「未指定」の建築物も対象として交付しているようです。補助率は1/2～2/3のようで、今後「登録有形文化財」などを目指す場合は2/3に引き上げるというものです。

解体され、消える可能性のある建築物に対し、県が直接係わって行くという画期的な支援が行われているという内容でした。

歴史的建造物を活用してゆく場合、建築基準法に適合させると価値を失ってしまう事案が生じてきます。そのため「歴史的建築物の活用に向けた条例整備ガイドライン」が平成30年3月に定められました。その事例報告について中村陽二氏(岡山県)から報告がありました。岡山県にある旧吹屋小学校では資料館として活用してゆくにあたり、構造の問題が生じたようです。伝統工法の設計法及び性能検証実験検討委員会のマニュアルや荒壁補強を基本、あるいは筋交い補強を基本にした許容応力度計算で検討するなど非常に細かい検討を重ね、最終的に岡山県建築審査会の同意をもとに県が建築基準法適用除外の指定をおこなったようです。開始されたばかりでまだ不透明なガイドラインですが、歴史的建造物の活用に対し、今後大きな波紋となることでしょう。

その後協議会規約の改正について話し合われました。いままでは運営委員会方式でしたが、会長制・役員会の導入をしてはという内容で、日本建築士会連合会に事務局を置き、連合会で運営をするというものでした。一番大切なネットワークが損なわれるのではないかとという質問や、東海ブロックでは一般のかたにもHM養成講座が受けられるようになっており、他のブロックでも建築士だけでなく様々な業種の方がいる現状があるといった意見が出されました。結果、次回に向けて話し合いをしてゆくという内容で閉会となりました。



懇親会の様子 運営委員長の後藤治先生

HMの活動ではネットワークが必要不可欠です。災害に対しどの様に取り組みを行うのか、また、新しいガイドラインに対してのお話など、とても有意義な総会でした。また、その後行われた懇親会では他県のHMと、長州大工の建築物やHMの活動についてなど、いろいろな内容についてお話することができました。

明治の宿・木屋旅館（伝統工法）

宇和島支部 酒井 純孝

木屋徳右衛門の二代目木屋徳三郎が、明治四四（1911）年堀端通りの現在地に商人宿として旅館「木屋」を開業した。

当時の宇和島は明治以後急速な産業、文化の発展に伴い、追手町通りや袋町を中心に繁華街が形成され、「融通座」という芝居小屋が追手町通りにあり、商業客はもとより役者や歌手などの芸人も多く宿泊した。



表外観

所在地の堀端通りには宇和島城の堀が埋め立てられた土地で、すぐ近くに追手門（国宝、戦災で焼失）があった。現代は大きな石碑のみ残っている。この旅館は木造二階建て、切り妻造り、平入り、瓦葺き（土葺き）、石場建て、延べ面積 559㎡（169坪）の、つし造りである。



創建当時の玄関

正面から見る外観は、1階は連子格子窓と犬矢来と、2階は硝子窓が連なり、風情のある佇まいを醸しだしている。（創建当時の写真には、建物の前に小川が流れその前には柳の木があり独特な風景でした。）

客用玄関前の軒先には、創建当時の門灯が残っている。



玄関ロビーと会議室

玄関を入ると取り次ぎの板間になる。板間横には、客間として和室8帖2部屋と4帖1部屋があり、3部屋共床の間の構えがあり会議室や宴の部屋に使われている。



会議室

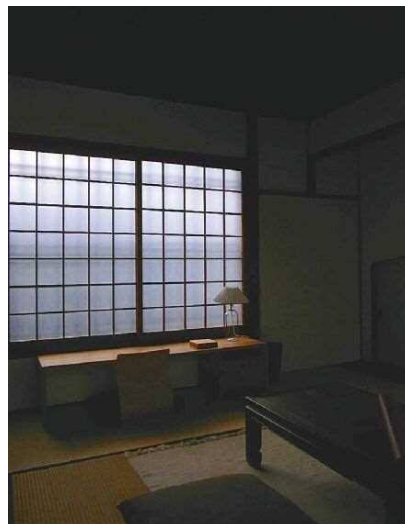
この客間と板の間からも中庭と宇和島城が見える空間になっている。主として1階には、旅館に必要な機能を備えた部屋が配置している。（板間の横にはお土産売り場と受付もあったが、現在は撤去されている。）調理室、風呂場、ボイラー室等がある。又、1階東部分に車庫があるが、創建当時は人力車の置き場所であった。従業員が使用していたもう一つの玄関には、宴が盛り上がり旅館に泊ったお客が、翌日早朝、人力車に乗るための小さな板戸があり、現代も残っている。

2階の間取りは、表通りを面して縁を設け、客室には八名までが宿泊出来るようになっている。客室の前に廊下、その外にも廊下が2重に設けられて、掃き出し用の硝子窓となっている。創建当時は建具はなく、雨戸のみとなっていた。外側の天井は主屋根の勾配で、その部分のみ天井が低く、屋根は銅版一文字葺きになっている。

2階の各部屋は、和室6.0畳と8.0畳、又は4.5畳と8.0畳の2タイプの構成で、それぞれの部屋には付け



1階客間の押入から床の間の痕跡出現・復元する。



司馬遼太郎が愛した夕方の部屋



2階客間4室

書院造りが存在する。又、2階北面端には、常連客の司馬遼太郎が宿泊するときに使用された部屋が今も残っている。

その部屋の西北面には、木製建具、北面には床の間、天井仕上げは、屋根勾配に貼り仕上げられている。

元の天井は非常に細い棹縁天井で、茶室の構えのある部屋でした。

小さい部屋であるが、静かで1階の中庭が見えて癒やしを感じる部屋で、司馬遼太郎がいつも使った部屋でした。又、司馬遼太郎は特にお風呂が好きで、入った風呂の壁や湯船は総て桧造りでありました。その後、脱衣室も湯船も桧そのまま女性浴室になり、現在は、記念の浴室として保存している。

創建当時の保存箇所としては、主玄関に向かって右に車庫がありますが、元々は人力車の駐輪場でした。早朝出発の時は、土間玄関から駐輪場への出入りには、小さな引戸（躍り口の様な）を利用して、人力車でお客様はこ

こから九州・大阪・広島と出発していったと又、創建当時1階の便所と2階便所は汲取り式便所でしたが、旅館の用途での再利用となるため、快適な空間を復元致しました。

現在の宇和島広小路には、司馬遼太郎が立ち寄った寄合い酒の店や喫茶店などが、老朽化はしているが、現役でも残っている景観の場所です。

明治・大正・昭和に司馬遼太郎・吉村昭・犬養毅・後藤新平などが宿泊した宿が木屋旅館です。

棟主の平川さんが元気な頃にお話を聞きました。

平成30年宇和島市は、明治150周年と位置付をいたしまして、文化活動をいたしました。

今回は創業明治四四（1911）年の木屋旅館を紹介いたしました。

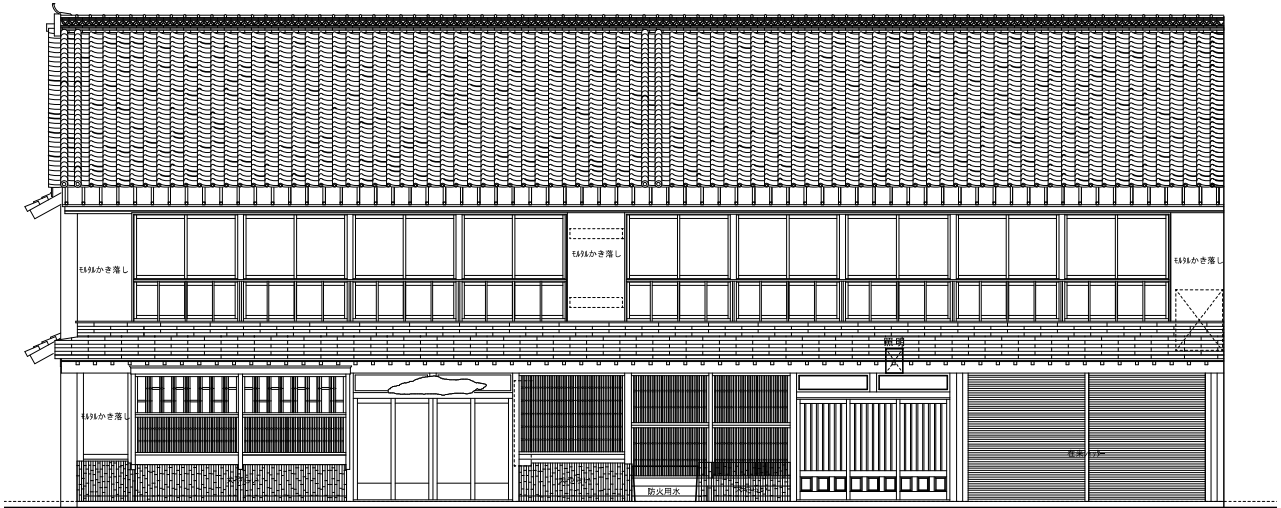


現在の手洗い

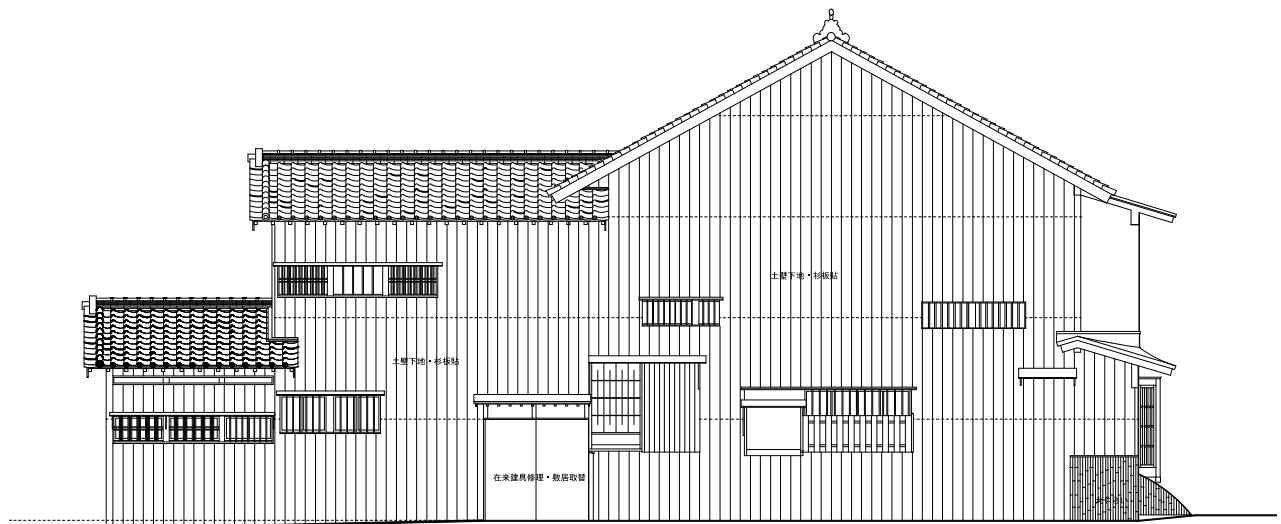


1階平面図

2階平面図



南立面図



西立面図

一徳島県建築士会奈良建築バス旅行一

松山支部 安藤 雅人

10月14日に開催された、徳島県建築士会主催の平成30年度建築見学会「奈良・初瀬街道とダニ・カラバン環境彫刻」に参加させていただきました。



室生寺五重塔

フェイスブックで、イベントを知り、学生時代に、土門拳さんの写真をみて、室生寺に憧れていたことと、四国一周サイクリング中であり、当日に徳島に行く予定だったことから、参加することを即決。女性部長の高源真由美さんに連絡したところ、早稲田大学建築学科の同窓だと分かりました。

前日に、徳島市から日和佐までサイクリングして、列車で戻って阿南に泊り、当日は、阿南で一人バスに乗り、徳島空港近くのバスターミナルで合流。もし、女性だけだったらどうしようと思っていたところ、昔、一緒に青年委員会活動をした岸田さんを初め、数名男性がいて一安心。でも、席は、高源さんのお隣に陣取りました。

最初に訪れたのは、長谷寺。屋根付きの長い石段、懸け造りの舞台、特別公開中の本尊大観音像、お祭りの太鼓台が印象的でした。また、門前町でいただいた、温麺（にゅうめん）、胡麻豆腐、柿の葉寿司も美味しかった。

次に、いよいよ、室生寺に。木立に挟まれた石段の登り口に差し掛かった時、お祭りの行列が下りて来ました。長谷寺でもそうでしたが、お祭りの雰囲気を感じてきて、とても幸運です。石段の上に佇む金堂は、素朴でありながら、重厚で、強い存在感を放っていました。また、金堂の内部を特別公開中で、本来の並び方の状況の秘仏群を拝観できました。一部が、建築中の宝物殿に移される予定なので、この状態では見納めです。

本殿を観て、一番観たかった五重塔へ。日本で一番背



室生寺金堂前の石段

が低い五重塔ですが、噂どおり、端正で、美しかったです。また、均整が取れているだけでなく、垂木の小口の形も口と○を使い分けているなど、ディテールも素晴らしいです。撮った写真から、水彩画を描いてみました。お決まりどおり、手前に石楠花（ジャクナゲ）を配しています。できれば、花の季節に再訪したいですね。

その後、室生山上公園芸術の森を訪れました。ダニ・カラバンの環境彫刻の中に入ったり、上に登ったり、皆で楽しみました。私一人だと、多分、見逃していたスポットだと思います。案内していただき感謝です。

長谷寺の参道で、久しぶりに、やはり青年女性の集いで知り合った、マジシャンの杉本真理子さんとも話せました。バスの中では、本人の言によれば、ずっと喋り続けることができるらしい高源さんと、昔の大学のこと、住んでいた高田馬場のラーメン屋やインドカレーのお店ことなどを懐かしみ、楽しく話しました。

徳島建築士会の皆さん、とても優しく、癒されました。ありがとうございます。特に、幹事の濱田知佐さんには、お世話になり感謝です。



芸術の森

矢野酒造（今治市小泉）概観調査

文化財・まちづくり委員会 委員長 花岡 直樹

矢野酒造の歴史等について

矢野酒造は、今治市の国道196号線の片山交差点から、玉川方向に約500m南へ行った同317号線の傍らの小泉4丁目に位置する。「勇美鹿（いさみしか）」「今治城」の銘柄の日本酒を作っていたが、20年ほど前に廃業している。今回は、矢野家四女の御令嬢にあたる、日高裕美氏から聞き取り調査を行った。

農地改革以前は、「港まで矢野家の土地だった。」と言われるくらいの大地主の家柄であった。余った米で酒を造った、との伝承があるくらい石高だったそうである。創業年代は明確ではないが、日高氏の曾祖父の矢野鹿治氏（安政4年<1857>没）の頃には営業していたとの言い伝えがあり、酒蔵もその当時の建築と考えられている。

四国霊場56番札所の泰山寺から東へ約800mの距離にあり、その風情を残した遍路道沿いに立てられた石柱の道標を囲むように建物が建てられていて、美しい景観を醸し出している。これには、

北面：へんろ道 八幡八十三丁

西面：右和霊大明神五十丁 奈良原本社五里半

南面：願主 當城下 大工與八 拜志屋本社五里半

東面：弘化四丁未春 世話人 静道

と彫られている。またこの脇には子安地藏が祀られている。

鹿治氏の名前は、先の泰山寺の石柱や、隣の三島神社の狛犬にも見られることから、矢野家とお寺・神社とのつながりの深さもうかがえることができる。

矢野酒造の建物について

敷地は約350坪と広大で、前面道路（角度があるが、こちらを西と今後表記する。）に面して母屋が建ち、それを囲むように酒蔵が建ち並ぶ。先述の道標は、敷地の北西角にあり、この位置の旧麹室は1階部分が切り取られた形で建っている。

一つ一つの建物を見てみると、母屋は「つし」2階、入母屋造平入りで、瓦屋根つきの塀が、敷地西南角の庭を囲んでいて、母屋玄関右に御成門を開いている。この庭には愛媛県保存樹で樹齢400年と言われたクロガネモチの大木があった（昨年伐採）。玄関を入ると北側に通り土間があり、奥の酒蔵に囲まれた中庭に通じている。右手道路沿いには店の間（6帖）と奥に座敷を配している。座敷は床、書院、床脇を持つ格式の高い、いわゆる「真」の造りとなっている。その中で、床脇の框に名栗材を使う、地袋の襖を斜めに設けるなど、遊び心がかがえる。また、長押の釘隠しには「鶴」と「亀」を描いたものが一部残されている。

店の間と座敷の東には小部屋が並ぶが、その一室に金

庫が重々しく座っている。扉には「武田商店製（工染部大坂本町）」の銘板が取り付けられている。

母屋の東側の、道標を覆う形で建っている旧麹室には、湯気抜きと思われる越屋根が、大屋根から突出しているのが印象的である。その奥の酒蔵は、整然とした長方形で、以前酒樽（タンク）が多数並んでいたと考えられる。その基礎に使われていたと思われるコンクリート製の円柱が残されている。

奥（敷地東）にも蔵が並ぶが、その中央の蔵の小屋裏には、太い梁で掛けられた重厚な小屋組みが見られる。これは、今治城の倉庫を解体した時のものをそのまま譲り受け使ったそうで、ここにも当時の矢野家の繁栄がうかがえる。1間ピッチで組まれた小屋梁は、水平な梁を3段に重ねたものと、登り梁としたものが交互に使われている。この登り梁は、階高の低い2階を倉庫として有効利用するための工夫だったと考えられる。また、この倉庫の片隅には、1帖分のベニヤ板にいくつもの種類のプレーカーが多数打ち付けられている。設備もどんどん進化し、足りなくなった電気容量を補うために増設を繰り返したものと考えられる。

母屋とこれらの酒蔵に囲まれた中庭部分には、小さな建物も建てられているが、現在はこれらも包んで、大きな鉄骨造の屋根で覆われている。そこには現役時代に使われていたと思われる井戸や、煙突の遺構が残されている。煙突の足元には丸く築かれた煉瓦や、焼けた炭の跡も確認できる。東側一画は空き地となっているが、試験室や便所棟が増築されている（いずれも年代は不明）。

建物の今後について

残念ながら矢野本家に子供がなく、約20年前の廃業後は、日高氏の従姉の方が居住しながら管理を続けてきたが、今年5月に亡くなられてからは無住となっている。彼女の御子息は東京に、日高氏とお母様も姫路在住ということもあり、今後の維持管理を断念し、今年暮れを目途に解体させることになったとのこと。解体を前に玄関式台と、店の間のケヤキの板戸は、泰山寺に記念品として引き取っていただき、どこかに再利用していただくようお願いしているとのことである。

これらの建物を取り壊されることは残念であるが、この地で栄えた大地主で酒造家・矢野家の歴史の生き証人として、これまで頑張ってきた建物の記録を残し、一人でも多くの人の心に留まることを祈りながら、紹介させていただいた次第である。

調査年月日：平成30年10月1日（月）

調査、図面・報告文作成

委員：白石耕平、花岡直樹



矢野酒造の北を走る遍路道



玄関から入ったところの通り土間



敷地の角にある道標と子安地藏



座敷の様子



母屋と庭を囲む塀に開く御成門



床脇 斜めになった地袋が特徴的



南より見る



鶴の紋様の長押の釘隠し金物 柱と長押はツガの良材



大坂武田商店製の金庫



次々と増設されたとみられるブレーカーを打ち付けた板



腰屋根が特徴的な旧麹室



鉄骨造の屋根で覆われた中庭部分



酒樽が並んでいたとみられる酒蔵



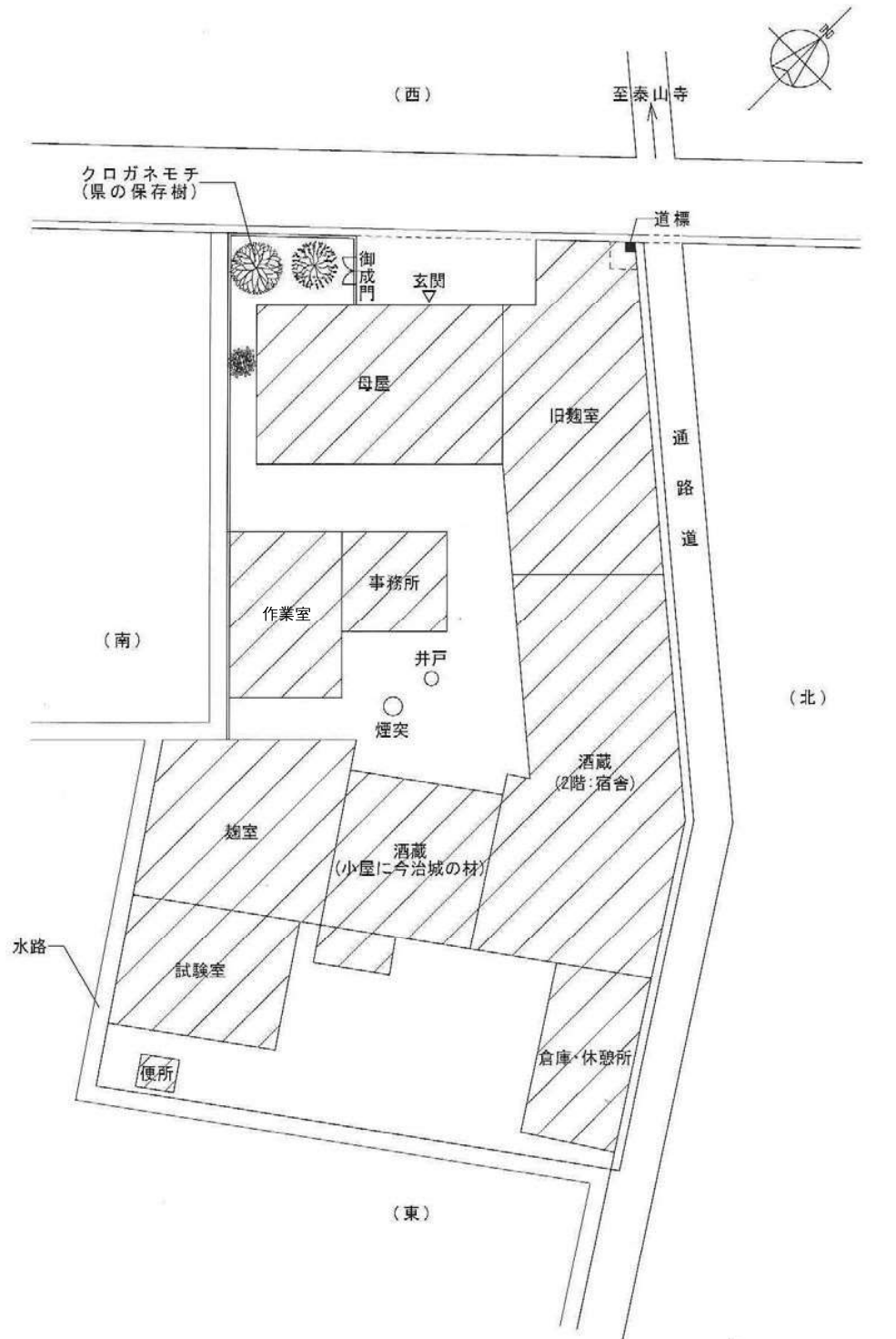
煙突の跡 丸く積まれたレンガと焼跡がみられる。



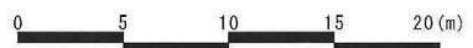
東側酒蔵の小屋組み 今治城の倉庫の材と伝えられている。



式台とケヤキの板戸は泰山寺で保管されている。



配置図 敷地面積: 1,143.10㎡



支部対抗ソフトバレー大会 優勝報告

四国中央支部 Aチーム 高橋 智洋

開催日：平成30年11月10日（土）
場 所：伊予市しもなだ運動公園
参加チーム数：12チーム（101人）



〔優勝 四国中央Aチーム〕

今年もすばらしい秋晴れのもと、恒例のソフトバレー大会が開催されました。

大会は、午前中に3チームずつ4ブロックに分かれて予選を行い、午後からはそれぞれの順位同士で決勝トーナメントを行いました。試合は12分間1セットマッチで、多く得点した方が勝ち。出だしが肝心で、一旦流れができてしまうと追いつくのが難しい内容です。

私たち四国中央チームは、ここ2年間優勝を逃しているのですが、今年こそはと7月から地元チームの胸を借りて練習してきました。開始当初は和気あいあいと楽しく練習していましたが、大会が近づくにつれ本番さながらの真剣なプレーでグッとレベルが上がったように思います。

さて試合ですがA・B2チームでエントリーし、練習の成果か両チームともブロック1位通過で決勝トーナメントに進みました。

決勝トーナメントはなんと、西条A・Bと四国中央A・Bの4チーム。準決勝でお互いのBチームを破り、いよいよ決勝です。西条Aチームは昨年の優勝チームということで、メンバー全員さらにスイッチが入りました。Bチームの応援のおかげか、滑り出しもうまくいきリードしたまま勝利することができました。

数年前、建築士会に入った時に誘われたのがきっかけでしたが、実際にやってみるとワンプレーごとにお互いの距離が近づいて、仕事以上の関係を築くことができました。

今ではメンバーも少しずつ増え、年を追うごとにレベルアップしていますので、来年は1・2フィニッシュを目指してさらに磨きを掛けたいです。

最後に、今大会の準備・運営をして頂いた皆さん、大変お世話になりました。また、参加された各支部の皆さんも本当にお疲れ様でした。



〔↑ 2位 西条Aチーム ↓ 3位 四国中央Bチーム〕



〔↑ 4位 西条Bチーム ↓ 5位 松山松平チーム〕



愛顔あふれるバレーボール大会

宇和島支部 宮本 裕喜



〔宇和島Aチーム (6位)・Bチーム (12位)〕

11月10日(土)に伊予市双海町、「下灘運動公園体育館」にて、支部対抗ソフトバレーボール大会について報告いたします。

宇和島支部は、2チームでの参加となりました。選抜メンバーの「宇和島A」はくじ運により、前回優勝チームとあたってしまいましたが6位に！

一方私たち選抜メンバーではない「宇和島B」は最下位に…。午前中は2試合共に20点ほどの得点差をつけられ完敗となりました。ですが午後からの試合では、「宇和島B」チームの絆も最高潮に!!!そして激闘の末…!!!みごと!!!2戦2敗…。

チームの絆だけでは賄え切れない部分がたくさんありました。

後日、バレーボール参加メンバーで「慰労会」が行われ楽しくお酒を飲むことが出来て良かったと思います。来年こそは「宇和島B」目指せ1勝!脱 原稿!を目指して頑張っていきたいと思います。

建築士会に入会1年目、初めてのバレーボール大会でした、すごく楽しい1日を過ごすことが出来ました。じゃんけんで負けてしまい原稿の担当となってしまいました。がこれも何かのチャンスだと思い頑張っていきたいと思います。

最後に参加して頂いた皆様お疲れ様でした。



〔11位 混合チーム〕



〔7位西予チーム〕



〔8位 伊予チーム〕



〔9位松山大上チーム〕



〔10位 松山長岡チーム〕

女性委員会主催 「愛南町南予遺産を巡る見学会活動報告」

宇和島支部 山田 千尋

11月3日、南予見学会はお天気に恵まれ、とても気持ちの良い見学会となりました。

今回の南予見学会は、私の地元でもある愛南町に。7名の女性メンバーと1匹のワンちゃんを巡る愛南名所ツアーです。まずは四国八十八箇所霊場40番札所「観自在寺」。ここではガイドさんはいなかったにも関わらず、霊場巡りをした事がある方からの知識や、持参してくれた資料を皆で読み解いてみたり。独自の解釈等あったかもしれませんが、楽しく見学することが出来ました。



観自在寺山門前にて

その後南予遺産八十八ヶ所に指定された「小西酒造所」を見学し、楽しみにしていた昼食へ。カツオのタタキや全身トロの幻の高級魚「媛貴海」、珍しい「タビエビ」等愛南の海の幸を満喫して頂きました。

午後は自然を満喫するコース。

まずは「石垣の里」山の斜面に民家が立ち並んでいるのですが、擁壁が石垣なんです。集落全部が石垣と階段で出来ているので凄い景色です。私は何度か行った事があるのですが、今回はガイドさんに説明をして貰いながらの散策だった為、初めて知った事や初めて歩いた場所があり楽しかったです。また石垣造りが継承されている事も聞けました。

「石垣の里」はなかなかの急斜面です。行きは長くて細い階段を皆でどンドン上りました。そういえば、皆さん体力ありましたね。上りも下りも結構ハードだったと思うのですが。アクティブな女性が集まっていたんですね！

ハードな体験だけではなく、途中の休憩所や上から見る海や景色にもほっこり癒されたんじゃないでしょうか。

最後は愛媛県の最南端「高茂岬」

秘境の地です。大げさでしょうか？でも行った事のある人は少ないと思います、おすすめです。

ここは「石垣の里」から奥に、くねくねとした山道を車で20分位走ります。舗装されていますが、ほぼ山の動物達の道です。猿やイノシシにいつ遭遇してもおかしくない道を走りいよいよ到着！

目の前に広がる海、空。本当に素晴らしい景色が広がっています。100mを超える断崖絶壁が続く「高茂岬」崖沿いにはノジギクや珍しい植物が生えています。時期は少し早かったので満開とはいきませんでした。ちらほら咲く可愛いノジギクを見つけながら、断崖絶壁の崖、時々壊れた階段を一列になって降りていきました。なかなか貴重な体験です。ここまで降りれるとは。

実は、石垣を案内して下さったガイドさんが高茂岬に行くこと聞いて一緒に付いて来て下さりました。その為、ここでもまた色々な事を教えていただき、大変充実した散策となりました。

南予遺産を巡る事がメインイベントだったのですが、隠しイベントとして愛南町内はお祭りの日でもありました。(町民にはメインですね。笑)なので行く先々でおみこしや地域特有の牛鬼、八鹿も目の前で見れたり道中を盛り上げました。

さらに昼食をとったお店ではくじ引きをしており、なんと見学会参加者の中から2人大当たり！大きな鯛と伊勢エビが当たりました！！物凄い土産が出来るというミラクルな出来事もあったりと、少人数ならではの温かくわいわいとした見学会になったのではないかと思います。

最後に、遠くから来て頂いた参加者の皆様本当にありがとうございました。



後ろには海が広がる。崖を上る上る。

平成30年度 違反建築防止週間 公開建築パトロール参加報告

松山支部 研修技術委員会 委員長 大内 雄志

日時：平成30年10月19日(金) 9:40~11:30
参加者：愛媛県建築士会 松山支部 武内支部長、井上副支部長、大内 以上3名

去る平成30年10月19日、この時期恒例の違反建築防止週間に伴う公開建築パトロールに参加してきました。毎年10月は、国土交通省による「違反建築防止週間」が設定されています。平成30年は、10月15日(月)~21日(日)とされていました。

松山市が主体として実施しているこのパトロールは、毎年例年通り建築士会から3名参加しています。私は今年、二宮さんから研修技術委員をバトンタッチしたため、初めての参加でした。

参加するにあたりこの「違反建築防止週間」についていろいろ調べてみると…

「国土交通省及び各特定行政庁が実施している、建築基準法例違反の建築物の是正やその発生予防の一環として設定されている」とのこと。また、全国的にパトロールや建築基準法遵守の普及啓発活動の強化などを行っているとのこと…

「建築確認の有無」

「建ぺい率・用途等の規定の状況」

「建築確認を受けた旨の表示状況」

「その他、建築基準法等に基づき遵守が必要な事項等」、など、さまざまな観点から確認を行っています。



出発前の記念撮影

しかしながらこのパトロールは、対象となる建物の中へ立ち入ったり、詳しく調べ上げてピンポイント指摘をしていくような性質のものではありません。あくまで建物が建築される際に、「建築基準法」という法律を守らなければならないことを今一度理解してもらい、違反建築の

防止を図るものなので、実際には建築工事中の現場を巡りながら声掛けをしていくといったものになっています。

本パトロールでは、松山市内建築工事中の共同住宅、分譲住宅の工事現場を対象として、3班×6名の18名で各エリアへ赴きました。

報道の方々が見守る中での盛大な開会式とともに、それぞれ各班の担当するエリアへ移動となり、我々建築士会の組は2班、松山市建築指導課の方3名との公開パトロールを実施しました。パトロールの現場は2か所、「北斎院エリア・衣山エリア」の住宅の小規模現場・分譲地でした。主に建築士会メンバーは、松山市の方が主体となり指摘事項の有無等をチェックしていく中でのサポート業務を行いました。

公開パトロールの結果は以下の通りです。

「点検件数は、27件でそのうち、確認表示板の未設置が6件あり、その場で是正するよう指導しました。」(松山市ホームページ抜粋)

我々の班でも工事看板の内容不備が1件あり、建築指導課の担当者より指導を行いました。

現在の法制度では、確認申請から完了検査までしっかりとした体制が出来上がっているため、違反建築はないだろうと思いがちですが、知らず知らずのうちに違反していることもあります。建築士として改めて建築基準法の重要性について学び、違反建築物の撲滅のため普及啓発活動を行い、安全安心のまちづくりの実現につなげていきたいと思えます。

最後になりましたが、ご同行いただきました、武内支部長、井上副支部長、お忙しい中ご参加いただき誠にありがとうございました。



北斎院エリア 公開パトロールの様子

次の世代へのバトン

四国中央支部 高橋 智洋

はじめまして、四国中央支部の高橋智洋と申します。同支部の受川さんからバトンを受け取りました。

今年で43歳、3児の父です。四国中央市で育ち、一旦は愛知の大学へ進みましたが、やる気があればどこでも同じと、友人たちと共に地元に戻ってきました。ゼネコンに就職して20年、施工管理一筋です。仕事で四国内を回るうちに多くの設計事務所さん、業者さんに出会い、個性的なデザインや納まりを勉強させて頂きました。いつでもいろんな人から刺激を受けるこの仕事は、ワクワクしっぱなしで飽きる事はありません。本当にこの仕事を選んでよかったなと感じています。

最近になって悩んでいることは、自己を磨いて個を追求していくつもりが、いつのまにか次の世代へ伝える側になってしまったことです。

私は理論や考え方に興味があり、講演などを探してはジャンルを問わず足を運んでいます。また機会を見つけては本屋に行き何時間も立ち読みして、読み切れないほど本を買ってしまいます。プライベートでは、仕事の延長でハマった雑木の庭と、中学校から始めたサッカーを楽しんでいます。他にもたくさんしたいことはあるので、家庭・仕事・遊びをこなすために一日が1.5倍くらい欲しいものです。

仕事への思いとして、建築はお施主さんや設計さんの思いが詰まっている個性的なものばかりで、同じもの一つとしてありません。これから何十年も寄り添っていく建物ですから、絶対に失敗出来ないと肝に銘じています。

施工管理は、図面を読み解き、設計の意図を表現しつつ、お施主さんが求める物をミリ単位で形にする必要があります。最近は完成度を上げるために、モックアップを作る事が多くなりました。モックアップは出来上がりを全員で共有することができるので、余裕があるならば

非やっておきたいプロセスです。

ただ、建築は芸術ではありません。繊細なものから重厚なものまで意匠は多々ありますが、全て人が使うためにあります。私が担当する時は、お施主さんに満足してもらえるもの、そして何十年もその形、美しさ、機能を維持できる建物となるよう常に心掛けています。

話は変わりますが、長続きしなかった弊社の若手も、ようやく新しい世代と呼べるようになってきました。一回り以上歳が違う世代に、どうすれば私を感じてきた建築の楽しさや素晴らしさを伝えられるか。口下手な私ですが、腰を据えて繰り返し発信していくつもりです。

それにはまず丁寧な仕事、そして悩み・苦しみながら自分の答えを出していく事が一番の近道です。私も就職当時は血気盛んで、やりたいことは何でも手を出して、失敗ばかりでした。でも自分で決めた事を納得できるまでやり遂げる事で、少しずつですが自分のアイデンティティを確立することが出来ました。

最近は効率化や省力化が進み、施工管理の守備範囲もかなり増えてきています。若手には、せかさず、考える時間・失敗できる十分な時間を作ってあげようと思います。

かの大隈重信は、「人間は125才まで生きられる。」と言っていました。私も今が人生の折り返し地点と焦らず、新しい事にどんどんチャレンジしていこうと思います。

次のバトンは、松山支部の中尾さんです。よろしくお願ひします!!



伊予市の介護施設 ここでギアが一段あがりました



折って尖らせてまさに折り紙のよう



2018年 ソフトバレー四国中央チーム

建築と私

松山支部 渡辺 亜加里

この度、松山支部の内田香織さんからバトンを受け取りました、松山支部の渡辺と申します。快く引き継いだものの、ここ最近は建築士会のイベントや会に参加できておらず、何を書いたらいいのか思いつきませんが、好き勝手に書いてみようと思います。

私は小さい頃から建築士になりたい！というような熱い志はありませんでした。ただ、ものづくりは好きで、何かが出来上がっていく工程を見たり、体験したりすることは好きでした。なので、将来は何かものづくりに携わる仕事がしたいと思ったのがこの業界に入ったきっかけです。

建築業界に携わってからも、周りの人々に恵まれ、建築の面白さをたくさん学びました。私の周りには、心から建築を楽しんで働いている人が多い気がします。そんな環境で学んできたので、私も純粋に建築が好きになりました。

松山に住んでいたら身近にある松山城や道後温泉など、昔は立派な建物だなあぐらいにしか思っていなかったけれど、仕事上たくさんの建物を見る機会が増えてきた今日この頃、建築のことを教えてもらいながら見学すると、過去に見たことのある同じ建物でも、今まで気づけなかった発見ができて面白いなと思いました。

私は旅行も大好きなので、どこかへ行くときは必ずその地域の建物を調べていくようになりました。

昨年は、ずっと行ってみたいかったカンボジアのアンコールワットにも行きました。



↑アンコールワット

日本では味わうことのできないスケールと異文化にた

だただ感動しました。

アンコールワットは期待通りで大満足でしたが、もう一つ、期待していなかっただけに衝撃的だった建物がありました。

タイのサンクチュアリーオブ・トゥルースという巨大木造寺院です。行く前に調べたら、アジアのサグラダファミリアと書いてありました。でも私の知識不足で聞いたこともなかったので、半信半疑で行きました。



↑サンクチュアリーオブ・トゥルース

実際行ってみると予想以上に迫力があって作り込まれていて見応えがある建物で驚きました。

気が付けば、仕事でも仕事以外でもたくさんの建築に関わっていて、欠かせないものになっているなと思いました。もっと建築士らしい専門知識を身につけなければいけないのが課題ですが、このような感じで日々、建築って面白いなと楽しんでいます。そんな中で学んできた小さなことでもひとつずつ積み重ねて、仕事や生活で役に立てたらいいなと思います。今後も国内外問わず色々な場所に行ってみたいです。

出かけることは好きなので、もっと建築士会の研修会にも参加したいと思っているのですが、いつも気付けば締め切り日を過ぎているので、これからはもっと期限に気を付けたいです。今後の建築士会の研修やイベントで一緒になったら宜しくお願いします。

次回は、松山支部の久保孝さんにバトンを繋ぎたいと思います。宜しくお願いします。

新刊「愛媛の古建築を訪ねて」のご案内

文化財・まちづくり委員会



公益社団法人愛媛県建築士会 文化財・まちづくり委員会は、これまで愛媛県の様々な古建築を調査し「会報」・会誌「いしづち」に発表してまいりました。

本書は、その33年分の記録を一冊にまとめたものです。

建物だけではなくその背景にある人や文化、歴史をひも解いてきた幾つもの調査・活動記録が収録されている、珠玉の一冊となっています。

文化財・まちづくり委員会より

このたび、愛媛の古建築を訪ねて（文化財・まちづくり委員会33年の活動記録）という冊子が出版されました。

愛媛県建築士会の機関紙「いしづち」に発表しつつづけている県内の文化財調査記録33年間分を再編集しました。ページ数はなんと473もございます。ジャンルも社寺、民家、近代洋風等、おもわず訪れたいくなる魅力的な建物ばかりです。緻密な図面も見応えがありますが調べ上げ書かれた報告書も読み応えは充分です。世界も広いですが愛媛県内にもまだ出会った事のない素晴らしい建物達が存在する事にこの本を通じてきっと出会えるはず。建物の不思議、大工の思い、時代の変遷、調査委員しか感じる事ができなかった体験をこの本を通じて共感して欲しいと思います。歴代の委員たちの気合の入ったキラキラ光る結晶のような本です。ぜひ手に取ってください！

※「愛媛の古建築を訪ねて」は愛媛県建築士会事務局で販売しています。

(公社)愛媛県建築士会ホームページをご覧ください <http://www.ehime-shikai.com>

専攻建築士（新規・更新）登録申請受付期間について

受付期間：平成31年1月4日（金）～2月28日（木）

新規は窓口のみの申請となります。（WEB申請は出来ません。）

要件 ①建築士免許取得後5年以上の実務実績
 ②責任ある立場での実務実績3件以上
 ③直近1年間のCPD単位12単位以上 となります。

更新は窓口とWEBの申請が選べます。（WEBは会員限定）

更新要件 ①2014年1月1日～2018年12月31日に取得したCPD単位60単位以上

②資格取得30年以上の方で、定期講習または特別認定講習受講者

専攻建築士の登録期間が切れてしまっている方も更新申請が可能です。申請書や費用等詳しくは（公社）愛媛県建築士会のホームページでご確認ください。<http://www.ehime-shikai.com/>

HOUSE



柔らかな風が庭の金木犀を撫でて、隣家との柵の隙間を漂う。スコットランドの伝統的なチェック柄のストールを巻いて、花名子は玄関のドアを開けた。

家の南側にある庭は穏やかな陽射しに包まれていたが、西日の当たる玄関側は、ドアを開けた途端に眩しい。スーツ姿の男が、黒いアタッシュケースを下げて立っていた。

彼の白い歯が、陽の影に浮かんで見える。その後ろから娘の心音の姿が現れた。

「駅で偶然、三越の車を見つけてね、外商の近藤さんがウチへ来る途中だって言うから乗せて貰ったの」

「橋女学院の制服をお召しでしたので、もしかしたらと思って停めたら、やはり曾我部様のお嬢様でした」

近藤は玄関のアプローチに立ち礼儀正しく頭を下げる。

「奥様のお好きそうなものを何点かお選びしてお持ち致しました。来月はお誕生月でございますので」

「あの人がお願いしたの？」

近藤を客間のソファに案内して、花名子はお茶を煎れるためにキッチンへ向かう。先日、義母から貰った宇治の抹茶入りのお茶を茶筒に移し替えながら、無意識に溜息が出た。テーブルに並べた九谷焼の煎茶セットは、ほんの2ヶ月前、今日のように近藤が持って来た品物で金地に艶やかな薔薇の模様が入っている。これなら洋間で出しても雰囲気の良いと選んだものだ。

「今日は何？」

近藤のアタッシュケースを見たときから、おそらくジュエリーの類だろうと予想はしていたが、開けると中には時間を見る機能より、豪華で繊細な作りを競う宝石時計が8点ほど並んでいた。

「ご主人のご希望で、今年のお誕生日には是非にと」

「でも、時計を貰っても私はずっと家にいるから」

「そうおっしゃると思ってこちらもご用意してみました」

近藤は両手でパンフレットを差し出す。上質な二つ折りの紙を開くと、真っ白い客船が印刷されている。

「私、ひとりで旅行なんてしたことがないから」

花名子がテーブルの上に開いたままのパンフレットを置いた。

「お出かけになりませんか？私も一緒します」

「え？」

窓に背を向けて座っている近藤の若々しい表情が、逆光でよく見えない。少し、苦笑いしているように感じた。

5年前、花名子の父が逝った。7年の闘病に苦しんだのは介護してきた花名子も同じで、30歳を少し過

ぎた年齢には見えないほど、酷い姿をしていた。市役所で最低限の葬儀を行って貰い、火葬場から父を連れて帰るとアパートのドアに不動産業者からオレンジの紙が挟まっていた。

「6か月分の家賃を滞納しています。至急下記の口座までご入金ください。月末までにご入金がない場合は…」

今の花名子に半年分の家賃を払う余裕もなく、財布には数千円しかない。遺骨を抱いたまま、公園のベンチに座っていると男が声をかけてきた。

「これを、その方へ供えてあげてください」

顔を上げると、背の高いスーツ姿の男が色とりどりのガーベラの花束を持って立っている。

「父の知り合いの方ですか？」

「ああ、その人はお父様ですね。ご愁傷様です」

花名子がぼんやりと椅子から見上げたまましていると、男は隣へ遠慮なく座った。

「これは？」

彼は花名子が握りしめていたオレンジの紙を開く。

「そういう事か」

眩くと、花名子の膝の上にあった白い箱を取り上げた。

「もう心配しなくていいから。おいで」

彼は近くのファミレスで曾我部と名乗り、花名子に食事を与え、明後日迎えに来るから、と約束して去った。翌日、不動産屋からの領収書がポストに入っていて、次の日には本当に彼自身が黒塗りの高級車で迎えに来た。

「ここが君の新しい家、それから新しい家族だ」

重い扉を開けると、可愛らしいリボンを着けた女の子が居る。

「はじめまして、心音です」

彼女は大きな瞳を瞬かせて子犬のように花名子に駆け寄り、腰に手を回した。

「ねえ、ママって呼ぶ？それともお母さん？お母さま？

それともお名前がいい？」

少女の屈託のない様子に花名子は戸惑ったが、どんどん身体を押されて奥へ連れていかれる。

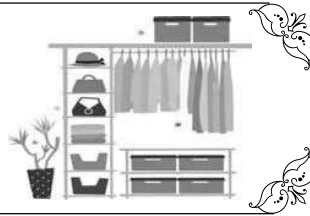
「さあ、君の家を案内しよう。急いで準備したから気に入るかな」

曾我部は次々と広い家のドアを開けて、最後に寝室の奥の扉の前で立ち止まった。

「ここが君のクローゼットだよ」

その部屋は寝室より広く、壁に沿って作り付けの棚が並んでいる。天井は鏡張りで床には温かな絨毯が敷かれていた。中央にはブティックにあるような引き出し付きのガラステーブルが置かれて、大量のアクセサリーが収納できる。

第3話 Closet

田真 夕楽
たま ゆら

ブレイクコーナー

「この部屋を君の好きな物でいっぱいにしてよ」
曾我部は無邪気に、本当に楽しそうに笑っていた。

それから5年間、毎週のように近藤がやって来て、服やバッグ、貴金属を置いてゆく。広いクローゼットは次第にいっぱいになった。

曾我部は花名子がこの家に入ったその日の夜には海外へ旅立ち、一度も帰宅していない。しばらくは単に娘のため、家政婦代わりに花名子を迎えたのだと思っていた。しかし戸籍を確認したら、本当に曾我部の妻になっていた。心音はちゃんと懐いているし、抵抗なくママと呼ぶ。心の奥の違和感さえ飲み込んでしまえば、贅沢な生活を送れた。

「そろそろクローゼットがいっぱいになった頃だろう？写真を撮って見せてくれないか」

曾我部からは毎日メールが届く。花名子は返信するのが任務のように、娘の様子や家のこと、特に近藤が来た日にはどんな物を持ってきたか、何を買ったかを丁寧に返信するのを日課とした。

クローゼットの写真を送った翌日、近所の工務店の社長がやって来て、書斎をリフォームすると言う。すぐに曾我部へ電話を入れたが繋がらない。2日ほど工事をして、今のクローゼットと同じ部屋が出来上がった。

「君は捨てるということを知らないからね」
「もったいなくて。でも何か処分しましょうか？」
「いや、君のそういうところが大好きなんだから。捨てるなんて言わないところがね」

ようやく繋がった電話で、彼はまた楽しそうに笑った。

近藤との船旅は何もかもが贅沢で新鮮だった。毎夜催される豪華なディナーショー、カジノでの遊びや和洋中のコース料理、プールにジム。5年もの間、殆ど家に居た花名子は数日、それらに圧倒されたまま過ごした。スーツ姿ではない近藤は、すべてをソフトにエスコートしてくれる。白く眩しい船上で、彼は完璧な恋人だ。

「そういえば心音ちゃん、やっぱりエスカレーターで上の大学へ？」

ベッドでカンパリソーダを飲みながら近藤が切り出した。

「たぶん。私は準備するもの、わからないからお願いするわ。今度学校で三者面談があるから聞いてみるけど」

花名子の表情が曇ったのを近藤は見逃さない。

「何か心配なことが？」

「私、継母だから」

「花名子さんが、そんな古めかしい言葉使うなんて。それに4人目だから心音ちゃんも慣れてるよ」

咄嗟に初めて曾我部の家に入った日のことが蘇る。心音はなんの躊躇もなく、なんて呼べばいい？と尋ねてきた。

「でも、戸籍は私が2人目だったはず」

「その時、よく見た？心音ちゃんは養子になってたろ？」

近藤の口調が少し低く、乱暴になる。

「本籍を移せば前妻の情報は消えるんだ。今回はわざと1人残しておいたんだな。でもその人が心音の母親じゃないことは確かだよ。だって、あの子も拾ってきたんだから」

彼が一体なにを言っているのか意味がわからない。

「曾我部さんの趣味だよ。拾ってきて大切に、そして捨てる。相手に捨てられることは許さないのにさ。心音ちゃんはよく心得てるよ」

「もしかして、あなたも？」

「この船旅に僕もオプションでついてるんだよ」

花名子は全身に鳥肌が立ち、トイレで嘔吐を繰り返して、残りのクルージングが終わるのを部屋に閉じ籠ってひたすら待った。そして、ようやく帰ってくると靴も脱がずに2階へ駆け上がった。クローゼットの一番奥に四角い箱に入った父が居る。父を連れて家を出よう。ここから逃げよう。

初めてこの家に来た日、花名子は父の遺骨をどこに置くか迷った。目につく場所に置くこともできず、曾我部の墓に入れてくれとも言えず、ここで5年経ってしまった。

「あなたも逃げるの？」

振り返るとクローゼットの扉の前に心音が立っている。

「いい子でいたら、あの人は与え続けてくれるのに。バカね」

ふと、アパートのドアに挟んであったオレンジ色の紙が蘇る。督促状という文字、何もないアパートの部屋。

「お父さん、私には決められない」

花名子はクローゼットに座り込んだまま、永遠に止まらないだろうと思うほど、嗚咽をただ繰り返して泣いた。満杯のクローゼットが花名子を引き留める理由だとしたら、それは憎悪すべきことなのだろうか。

「花名子ママ、あの人にとっても私たちは必要なのよ。だからちっとも悪くない。ギブアンドテイクよ」

心音は優しく、本当に優しく泣き続ける花名子の髪を撫でた。

了

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしていきます。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承下さい。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

平成31年3月号(127号) 平成31年1月24日(休)

※ 校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※ 1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかも知れませんので、予めご了承下さい。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がれば、と願っています。

情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せ下さい。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(土会事務局内)宛

— FAX 948-0061 —

編集後記

デザインを理解しようとする自分が理解できる思考に当てはめようとするようです。

生まれ育った砥部町から北欧へと渡り、マリメッコのデザイナーとして活躍した石本藤雄さんは、マリメッコの現場を離れた後も、ヘルシンキで陶芸家として活躍しています。

凱旋イベントで石本藤雄さんに質問に対する回答が面白かった。

「生まれ育った砥部町で親しんだ数々の風景がデザインの源となったのでしょうか?」に対して、「正直…。あまり覚えていないですが、影響はあると思います。」

「座右の銘は?」

「ありません。」

デザインを理解したい人からの質問は、デザインのアイデアが何処から来たものか、参考にしたかったのかも知れません。でも、掴めませんでした。ただ、楽しみながら新しい表現を生み出している。

インスピレーション。直感。閃き。

石本藤雄さんを理解するのは簡単ではないようです。

だから、人を惹きつけるデザインが生まれるのだと思いました。

ということで、新しい年を迎え自分を信じ「インスピレーション」を大事にする年にしてみたらどうでしょう。(大平将司)

〈いしづち〉2019/1

平成31年1月発行

発行人 **会長 赤根 良忠**

発行所 **公益社団法人 愛媛県建築士会**

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5

TEL (089)945-6100 FAX (089)948-0061

http://www.ehime-shikai.com E-mail: info@ehime-shikai.com

印刷所 明星印刷工業株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長 大平 将司 副委員長 渡邊 道彦

編集委員 大上 恵子 山本 晶子 政石 信行 白石 学 武智 良太 成松 弘之助

☆会員の皆様、住所等が変更になった時には事務局までお知らせください。(FAX 089-948-0061)

公益社団法人 愛媛県建築士会

会員住所等の変更届出

この様式は愛媛県建築士会の会員名簿データの変更のみです。建築士のデータの変更には使用できません。

【正会員・準会員】

		支部		年	月	日	
ふりがな		生	大				
氏名		年	昭	年	月	日	
		月	平				
		日					
					性		
					別		
変更部分のみ記入して下さい	現住所	〒		—			
		TEL		FAX			
	勤務先	名称					
		〒		—			
		TEL		FAX			
建築士資格	一級・二級・木造・準	登録年月日	昭・平	年	月	日	
		登録番号	第			号	



住所等に変更のあった建築士の方は下記の書類も提出してください。

建築士法上の住所等の届出については下記のとおりです。

建築士住所等の届出の次の記載事項(①～③)に変更があった場合、変更があった日から30日以内に(公社)愛媛県建築士会に申請者本人が届け出てください。

①住所、本籍等 ②建築に関する業務に従事する者にあつては、その業務の内容
③勤務先の名称(建築士事務所にあつては、その名称及び開設者の氏名)及び所在地

書式は愛媛県建築士会のホームページからダウンロード出来ます。

メールマガジンで講習会や勉強会などの情報をご案内

メールマガジンにご登録いただいた方には、講習会や勉強会などの情報をメールでご案内します。登録メールアドレスはパソコンアドレス、携帯アドレス、どちらでも可能です。

ご案内メールの登録・変更・解除はHPから

<http://www.ehime-shikai.com/mailmagazine>